2026年度一般選抜一期入試問題出題意図

（1）英語

大問Ⅰ（空欄補充問題）

提示された英文中の空所に入る適切な語句を選択する形式の問題です。英語の文法・語法の必須知識が身についているかを測ることを目指しました。

大問Ⅱ（対話文完成問題）

提示された対話文の空所に適切な文を形式の問題です。対話の文脈を適切に把握する能力と口語特有の表現の定着度を測る意図で作成しました。

大問Ⅲ・Ⅳ（読解問題）

論説文を用いた、空所補充や正誤判定を中心とした長文読解問題です。語彙力、論理把握能力、パラフレーズ技能等の読解力を総合的に測ることを目指しました。

（2）数学

大問Ⅰ（分数の計算）

分数の計算を題材として、計算の最も基本となる四則演算と、約分および通分の計算が身についているかどうかを確認する問題です。分数同士のごく基本的な四則演算から繁分数の計算までを組み合わせて、受験者の基本的な計算力を適切に評価することを目指しました。

大問Ⅱ（因数分解・複素数）

多項式の因数分解と複素数の展開、根号の定義と根号を含む分数の計算を題材として、根号と式変形

を含む計算が身についているかどうかを確認する問題です。これらの計算能力は、高次方程式の求解や発展的な関数の計算で必須となる能力なので、様々な問題を組み合わせて、受験者が偏りなく理解できているかどうかを評価することを目指しました。

大問Ⅲ（対数計算）

対数の式の値を求める計算を題材として、対数の計算法則が身についているかどうかを確認する問題です。間接的に、対数と表裏一体の関係にある指数の計算知識も確認しています。これらの知識は物理学や化学の様々な法則の計算に頻出する指数関数と対数関数の理解に不可欠なので、累乗の対数、積と商の対数、底の変換の計算を組み合わせて、受験者がその基礎を正しく理解できているかどうか評価することを目指しました。

大問Ⅳ（確率）

大量生産するお菓子に不良品が出る確率を題材として、条件付き確率の計算が身についているかどうかを確認する問題です。データ解析や生成 AI の基礎になっている確率の概念の理解と、文章問題を読解して計算式を組み立てる実践的な計算力があるかどうかを評価することを目指しました。

大問Ⅴ（三角関数）

角度の表し方の変換と三角関数を題材として、様々な図形の計量で基礎となる三角比と三角関数の計算が身についているかどうかを確認する問題です。ごく基本的な角度の変換の計算から三角関数の公式をそのまま適用するだけでは解けない問題までを組み合わせて、受験者の理解度を適切に評価することを目指しました。

大問Ⅵ（図形）

三角形を含む図形の辺と面積の比を題材として、図形の計量に関する基礎知識を具体的な図形に活用

できるかどうかを確認する問題です。公式を一度だけ適用すれば解ける問題と、複数回適用しないと解けない問題を組み合わせて、受験者の応用力を適切に評価することを目指しました。

大問Ⅶ：

多項式の導関数・停留点と異なる実数解の個数の導出および定積分を題材に、微分と積分の計算および三次関数のグラフの特徴が身についているかどうかを確認する問題です。基礎的な微分の計算から、計算量が多くなる定積分までを組み合わせて、受験者の理解度と計算の正確性を適切に評価することを目指しました。

（3）理科

●物理

大問Ⅰ（熱）

熱に関する基本的な知識を有しているか、また物理量の変化をグラフに対応できるかを問うために出題しました。

大問Ⅱ（運動とエネルギー）

運動とエネルギーに関する基本的な知識を有しているかを問うために出題しました。また、問題文を読み理解し、問題の意図に沿った解を導けるか、そしてそのための発想力を有しているかを問うために出題しました。

大問Ⅲ（摩擦力）

静止摩擦力と動摩擦力に関する基本的な理解を問うために出題しました。

大問Ⅳ（屈折）

波の屈折に関する基本的な知識を問うために出題しました。

大問Ⅴ（放射性物質）

原子力産業や医療において重要な放射性物質の壊変を題材として，半減期の意味とその求め方の基本的な理解を問う問題と，将来的な放射性物質の残量を求めるための応用計算問題を組み合わせて出題し，受験者の能力を適切に評価することを目指しました。

●化学

大問１（基本問題：全般）

理論化学、無機化学、および有機化学それぞれの範囲の基本的な理解を確認するための問題です。小問の集合体となっており、それぞれの基本事項の理解を評価することを主眼としています。

大問２（周期表）

元素の周期的な性質および同族元素の名称や性質についての基本事項を確認するための問題です。周期表から代表的な元素の性質や名称を読み解くことができるかについて適切に評価することを意図しています。

大問３（気体の性質）

互いに反応しない二種類の気体の混合を題材として、気体の性質について理解しているかを確認するための問題です。計算により分圧を求めるだけでなく、問題文に従って順次解答していく方式により、途中段階を理解しているかについても適切に評価することを目的としています。

大問４（酸化還元反応）

過マンガン酸カリウムを用いての過酸化水素の滴定実験を例とした、酸化還元反応の理解を確認する

ための問題です。実験操作に従い順次回答することで、単に過酸化水素の濃度を計算から求めるだけでなく、化合物の変化について、さらに実験器具についても理解しているか評価することを主眼としています。

大問５（有機化学）

前半は芳香族化合物の反応例から、有機化学反応の基本を理解しているかを確認するための問題で、後半は、炭素・水素・酸素のみから構成される有機化合物の元素分析を題材とした分子式を求める計算力を確認するための問題です。有機反応では、原料と試薬から生成物を想起するにとどまらず、将来の医薬品合成を見据え、どのような試薬を用いると目的の化合物を合成できるかの理解について、さらに元素分析では計算力についても適切に評価することを目的としています。

●生物

大問１（基礎的知識：減数分裂・遺伝・酵素反応）

試験全体の導入として応用問題なしの設定で、減数分裂と遺伝的多様性の基本的メカニズムと、酵素の特異性と競合阻害の関係を題材として、医療系学部で求められる基礎的な生物学的知識の確認を目指しました。

大問２（神経系）

医療職を目指す者に必須の生物学的基礎知識である「神経系」、特にニューロンによる興奮の伝導を題材に、『活動電位などのグラフと生体内で起きている現象をリンクして読み取る能力があるかどうか』を適切に評価することを目指しました。

大問３（内分泌）

医療職を目指す者に必須の生物学的知識である「内分泌系」を題材に、

ホルモンの考え方や代表的なホルモンの基礎的知識が身についているかどかを確認するための問題です。ごく基本的な問題と、問 11 のように実際の疾病の検査において、特定の病気においてどのようなホルモンがネガティブフィードバックの仕組みによってどのように変化するのかを推察するといったやや難しい問題を組み合わせることにより、受験者の能力を適切に評価することを目指しました

大問 4（遺伝子組換え）

バイオ医薬品などを理解する基盤となる遺伝子組換えに関する実験を題材とし、遺伝子の働きや組換え技術の基本を理解しているかを確認するための問題です。基礎的な知識を問う問題と、実験条件や結果を踏まえて考察する問題を組み合わせることで、手順や用語を覚えているだけでなく、実験の意図を理解し、結果を論理的に読み取る力を適切に評価することを目指しました。